

志學館大学学生に対する 生活調査の結果

平成30年12月
志學館大学学務委員会
志學館大学IR室

1. 趣旨

学生の生活実態、学修行動、大学の施設等への満足度は、教育の質の向上を図るための諸施策を企画・実施するために必須の基本情報である。志學館大学では、これらの情報を収集するために、学務委員が中心となって、学生に対する電子的アンケート調査を実施した。

本報告において、特に断りのない場合、[] 内の数値は、平成 29 年度に実施した同調査（以下 H29 調査）における値を示す。

2. 資料

全学学生（大学院学生を含む。以下、同じ。）1311 [1249] 人を対象に、ユニバーサルパスポートシステムを通じて、以下のカテゴリーに分けられる 33 [28] 件の設問に答えて貰った。

- (1) 学生の属性に関する情報
- (2) 住居・通学手段等
- (3) 学修行動
- (4) 本学の施設への満足度
- (5) 生活困窮度とアルバイト
- (6) 心身の健康度
- (7) 大学生活全般への取り組みと満足度
- (8) 大学入学後に身に付いた力

表 1 調査で得られた資料数

学年	人数	学科等	人数
1 年生	234	心理臨床	286
2 年生	166	人間文化	138
3 年生	139	法律	154
4 年生	93	法ビジネス	57
5 年目以上	3	大学院	6
大学院生	6	その他	2
その他	2	合計	643
合計	643		

平成 30 年 8 月 24 日から 9 月 1 月までの間に、計 643 [417] 人（男子 304 [200] 人、女子 339 [217] 人）の学生から回答があった（回収率 49.0% [33.4%]）。学年別では、低学年ほど回答数が多かったが、大きな差ではなかった。学科等別でも、回答率は学生現員数比から大きく外れるものではなかった。これらのことから、調査に影響を与えるほどの資料の偏りはなかったと判断した（表 1）。

3. 分析結果

住居及び通学手段等： 学生の住居は、自宅（親族と同居）が 463 [293] 人（回答総数の 72 [70] %）と最も多く、次にアパート・マンションが多かった。寮生は 5 [3] % と少なかった。

表 2 住居及び通学時間

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
自宅	463	72.0	15 分以下	157	24.4
親類知人	5	0.8	30 分以下	132	20.5
アパート・マンション	142	22.1	60 分以下	151	23.5
寮	33	5.1	90 分以下	84	13.1
下宿	0	0	120 分以下	19	3.0
その他	0	0	120 分を超える	5	0.8
合計	643	100.0	合計	548	85.2

通学時間（家から大学までの片道所要時間）の長短はさまざまで、概ね 90 分以下でばらついてきた。最短では 1 [3] 分である一方、120 分を超える者もいた。

通学手段については、複数を利用している場合はすべてを答えて貰った。乗物を使わず徒歩のみの者は、159人(25%)であった。個人的な交通手段(自転車、バイク、自家用車(送迎を含む))を用いている者は合計297人(46%) [210人(50%)]で、公共交通手段(JR、市電、バス、フェリー)を利用している者は合計397人(62%) [274人(66%)]であった。2つ以上の乗物を併用している者は170人(26%)、JRとフェリーを合わせて217人(34%) [137人(33%)]であるのは、通学時間が長い者が少なくない事実と対応し、本学学生の通学圏が極めて広いことを示唆していると考えられる。またこれらの比率は、H29調査における比率とほぼ同じであった。

表3 通学手段 (移動手段すべて)

回答	回答数	比率%
乗物を使わず徒歩のみ	159	24.7
自転車	84	13.1
バイク	138	21.5
自家用車	36	5.6
自家用車(送迎)	39	6.1
JR	206	32.0
市電	68	10.6
バス	112	17.4
フェリー	11	1.7
その他	2	0.3
合計	855	133.0

学修行動等： 1週間あたりの平均登校日数(今年7月)は、5日(56 [53]%)が最も多く、中には6日・7日と土日も大学に来ている者もいた。5 [4]日以上大学に来ている者の合計は88 [83]%で、出席状況は概して悪くはないと言える。ただし、学修状況が芳しくない学生は本アンケートに答えていない率が高いと想像できることから、この分析結果にはある程度の留保が必要だろう。

大学に来た時に大学に留まっていた時間は1時間未満から8時間以上まで大きくばらついていたが、緩やかなモードは4時間から6時間あたりにあり、平均値は約5.4時間程度であった(回答が最初から階級分けされたものであったので、近似値である)。H29調査とほぼ同じのこの値は、本学学生は一度登校すると、大学に長くとどまる傾向にあると判断できる。これは、通学時間が長いこと、本学周辺にキャンパスを離れる要因となる学生街等がないこと、サークル活動が学生生活の大きな部分を占めている学生が多いことなどが要因なのではないかと考える。

表 4 週当たり通学日数及び日当たり在学時間

通学日数/週	回答数	比率%	在学時間/日	回答数	比率%
0日	8	1.2	1時間未満	13	2.0
1日	22	3.4	～2時間未満	24	3.7
2日	20	3.1	～3時間未満	53	8.2
3日	37	5.8	～4時間未満	127	19.8
4日	120	18.7	～5時間未満	131	20.4
5日	360	56.0	～6時間未満	117	18.2
6日	44	6.8	～7時間未満	67	10.4
7日	32	5.0	～8時間未満	66	10.3
合計	643	100.0	8時間以上	45	7.0
			合計	643	100.0

平日（平成30年前期）、予習に当てる1日の平均時間は1時間未満、1時間以上2時間未満が多く、257人(39.3%)であった。平均値は26分程度であった。一方、「まったくしなかった」者は108人(16.8%)おり、これに無回答者を含めると382人(59%)になる。

週末の予習時間は、「1時間未満」が142人(22%)であり、「まったくしなかった」者144人(22%)に無回答者を合わせると428人(67%)であった。平均値は26分で平日と違いはなかった。

平日の復習時間でも「1時間未満」が187人(29%)と多く、「1時間以上2時間未満」と合わせて292人(45%)であった。「まったくしなかった」者は76人(12%)であり、無回答者と合わせて349人(54%)になる。平均値は34分程度であった。

週末の復習時間は、やはり「1時間未満」が多く142人(22%)であり、「1時間以上2時間未満」と合わせて227人(35%)であった。「まったくしなかった」者は111人(17%)であり、無回答者と合わせて394人(61%)であった。平日に比してわずかながらに学習時間は少なくなっていた。平均値は35分程度であった。

授業に関連しない学習を平日に行っている時間は、「1時間未満」が144人(22%)であり、「1時間以上2時間未満」と合わせて200人(31%)であった。「まったくしなかった」者は133人(21%)であり、無回答者と合わせて413人(64%)であった。平均値は35分程度であった。

週末の授業無関連学習時間は、「1時間未満」が109人(17%)であり、「1時間以上2時間未満」と合わせて181人(28.2%)であった。「まったくしなかった」者は137人(21%)であり、無回答者と合わせて425人(66%)であった。平均値は42分程度であった。

また予習、復習、授業外の学習を合計した平日の総学習時間は、平均値が93分程度であり、週末では101分であった。さらに各学習時間間の相関関係を検討すると、予習と復習は平日も週末もセットで行い、平日の学習が多ければ週末も多くしているという傾向が見られた。特に授業外学習は平日時間数と週末時間数の間に非常に高い相関 ($r=.85$ 、 $p<.001$)が見られた。

表 5-1 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（予習）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	274	42.6	無回答	284	44.2

表 5-2 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（復習）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	273	42.5	無回答	283	44.0
まったくしなかった	76	11.8	まったくしなかった	111	17.3
1時間未満	187	29.1	1時間未満	142	22.1
～2時間未満	105	16.3	～2時間未満	85	13.2
～4時間未満	1	0.2	～4時間未満	20	3.1
4時間以上	1	0.2	4時間以上	2	0.3
合計	643	100.0	合計	643	100.0

表 5-3 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（授業に関連しない学習）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	280	43.5	無回答	288	44.8
まったくしなかった	133	20.7	まったくしなかった	137	21.3
1 時間未満	144	22.4	1 時間未満	109	17.0
～2 時間未満	56	8.7	～2 時間未満	72	11.2
～4 時間未満	24	3.7	～4 時間未満	27	4.2
4 時間以上	6	0.9	4 時間以上	10	1.6
合計	643	100.0	合計	643	100.0

表 5-4 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（合計）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	285	44.3	無回答	295	45.9
まったくしなかった	51	7.9	まったくしなかった	70	10.9
1 時間未満	65	10.1	1 時間未満	52	8.1
～2 時間未満	118	18.4	～2 時間未満	93	14.5
～4 時間未満	108	16.8	～4 時間未満	98	15.2
4 時間以上	16	2.5	4 時間以上	35	5.4
合計	643	100.0	合計	643	100.0

サークル活動等への参加状況では、加入していない者が 211 [138] 人 (33 [33] %) であった。参加者の中では、体育系サークル、文科系サークルの参加はそれぞれ 178 人 (27.7%)、246 人 (38.3%) であり、両者を合わせて 424 [284] 人 (66 [68] %) が参加していた。その他、学友会役員会、银杏祭実行委員会に参加している者が合わせて 26 [17] 人 (4 [4] %) いた。これらの結果からは、41 [36] 人又はそれに近い人数は複数の活動に参加しているとみられる。

サークル等への参加状況をみると、学生が授業科目の履修以外のさまざまな活動を活発に行っていると判断できる。

表 6 サークル等への参加状況

回答	回答数	比率%
加入していない	211	32.8
体育系サークル	178	27.7
文化系サークル	246	38.3
学友会役員会	18	2.8
银杏祭実行委員	8	1.2
学外のサークル・団体	12	1.9
その他	11	1.7
合計	684	106.4

大学の施設への満足度とニーズ：「大学内での「居場所」はどこですか」と問うたところ、「カフェテリア」がH29調査に引き続き、245 [171]人(38[41]%)で最も多かった。次いで、「コスモスホール」、「図書館」、「空いている教室」の順で多く、これら合計が260 [167]人(41 [41] %)であった。カフェテリア、29年度にリニューアルしたコスモスホール、図書館が学内のアメニティ空間としての役割を果たしていることが、浮き彫りになっていると考える。

表7 大学内での「居場所」

回答	回答数	比率%
居場所はない	57	8.9
カフェテリア	245	38.1
図書館	74	11.5
コスモスホール	122	19.0
本館3階ロビー(学習室)	8	1.2
空いている教室	64	10.0
その他	73	11.4
合計	643	100.0

図書館への満足度を聴いたところ、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて544 [351]人(85 [84] %)で、満足度は高いと判断できる。不満なところとしては、まず「不満なところはない」とした者が401 [236]人(回答者中の62 [57] %)であった。残る242 [181]人が挙げた不満のうち、「蔵書の種類や冊数」が149 [103]件(23 [57] %)で最も多かった。「開館時間」、「貸出しサービス」、「情報の案内の仕方」等のソフト面での不満はいずれも多くはなかった。一方、「利用者のマナー」といった、利用者側の問題点の指摘も23 [13]件(4 [7] %)あった。

表8 図書館への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	170	26.4	開館時間	39	6.1
どちらかといえば満足	374	58.2	蔵書の種類や冊数	149	23.2
どちらかといえば満足していない	80	12.4	貸し出しサービス	22	3.4
まったく満足していない	19	3.0	情報の案内の仕方	27	4.2
合計	643	100.0	利用者のマナー	23	3.6
			その他	47	7.3
			合計	307	47.7

コンピュータ室については、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて583 [372]人(91 [89] %)で、満足度は高いと判断できる。不満な点を具体的に上げて貰ったところ、「不満なところはない」とした者が415 [237]人(回答者中の65 [57] %)であった。残る228 [180]人が挙げた不満のうち、「利用できるパソコンの台数」が83 [76]件(12 [42] %)と最も多く、「パソコンの処理能力やアプリの不足」と合わせて119 [100]件(17 [55] %)であった。ハード面での不満を持つ者が一定数いるもののその割合はH29調査より大きく減少している。一方、「利用者のマナー」の問題点の指摘が76 [55]件(11 [31] %)あった。

表9 コンピュータ室への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	276	42.9	パソコンの処理能力やアプリの不足	36	5.6
どちらかといえば満足	307	47.7	利用できるパソコンの台数	83	12.1
どちらかといえば満足していない	52	8.1	サポート体制	26	4.0
まったく満足していない	8	1.2	利用者のマナー	76	11.8
合計	643	100.0	その他	50	7.8
			合計	271	42.1

カフェテリアについては、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて544 [307]人(85 [74]%)で、満足度は高いと判断できる。不満なところはないとした者が350 [189]人(回答者中の54 [45]%)であった。残る293 [227]人が挙げた不満のうち、「メニューの品揃え」99人(15%)、「価格」95人(15%)をあげる者が多かった。「経験的におそらく不満があるだろうと想定できる「スペースの狭さ、テーブル数の不足」が回答選択肢に含まれていなかったため、不満はやや過小評価となっている可能性がある。

表10 カフェテリアへの満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	204	31.7	味	43	6.7
どちらかといえば満足	340	52.9	価格	95	14.8
どちらかといえば満足していない	81	12.6	営業時間	58	9.0
まったく満足していない	18	2.8	メニューの品揃え	99	15.4
合計	643	100.0	アレルギー情報等の表示	4	0.6
			机や椅子の配置など環境	88	13.7
			利用者のマナー	63	9.8
			その他	19	3.0
			合計	469	72.9

改装されたコスモスホールについて、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて602人(93.6%)で、満足度は高いと判断できる。

表11 コスモスホールへの満足度

回答	回答数	比率%
非常に満足	327	50.9
どちらかといえば満足	275	42.8
どちらかといえば満足していない	28	4.4
まったく満足していない	13	2.0
合計	643	100.0

生活困窮度とアルバイト： アルバイト収入を得る前に、金銭的な面で生活の余裕はあるかとの問いに、89 [37] 人(14 [9] %)が「非常に苦勞している」と答え、「どちらかと言えば苦勞している」と合わせて324 [205] 人(50 [49] %)であった。一方、アルバイト経験の有無では、512 [341] 人(80 [82] %)が経験をしていた。アルバイト収入を得たのちの金銭的な生活の余裕については、35 人(5%)が「それでも非常に苦勞している」と答え、「どちらかと言えばまだ苦勞している」と合わせて、191 人(30%)であった。

表 12 生活困窮度とアルバイト経験の有無

アルバイト収入を得る前

回答	回答数	比率%
非常に苦勞している	89	13.8
どちらかと言えば苦勞している	235	36.5
どちらかと言えば苦勞していない	258	40.1
余裕がありお金で苦勞はしていない	61	9.5
合計	643	100.1

回答	回答数	比率%
アルバイト経験あり	512	79.6
なし	129	20.1
わからない	2	0.3
合計	643	100.0

アルバイト収入を得たのち (アルバイト経験者)

回答	回答数	比率%
それでも非常に苦勞している	35	5.4
どちらかと言えばまだ苦勞している	156	24.3
どちらかと言えばもう苦勞していない	209	32.5
余裕ができお金で苦勞はしていない	81	12.6
合計	481	74.8

平成30年度前期の期間のアルバイトの頻度を聞いたところ、1週間に3~4回程度のアルバイトを行っている者が242 [165] 人(38 [54] %)で最も多く、5回以上行っているものを合わせると295人(46%)であった。

平成30年6月と7月の月間アルバイト収入を聞いた。下の表の数値はその2か月間の平均値である。月間アルバイト収入は4万円から8万円の間の者が126 [100] 人(本設問回答者の38 [40] %)で最も多かった。本設問回答者の平均月間アルバイト収入は約4.3 [4.0] 万円であった。なお、8万円を越えるアルバイトを行っている者が33 [12] 人(5 [5] %)おり、最大値は15.5 [13] 万円であった。

上記の困窮度の質問で「非常に困っている」と答えた89 [37] 人のうち、55 [25] 人がこの質問で収入があった(残りの34 [12] 人は困窮していても少なくとも6月と7月には、アルバイトはしていない)。一方、8万円を超える収入があった者のうち、アルバイト収入を得たのちも「それでも非常に苦勞している」と答えた者が、6人いた。

表 13 アルバイトの頻度と月間アルバイト収入

回答	回答数	比率%
アルバイトはしなかった	187	29.1
不定期/単発アルバイト	40	6.2
1週間に1~2回	121	18.8
1週間に3~4回	242	37.6
1週間に5回以上	53	8.2
合計	643	100.0

回答	回答数	比率%
1万円以下	45	7.0
2万円以下	26	4.0
4万円以下	104	16.2
8万円以下	126	19.6
8万円を超える	33	5.1
合計	334	51.9

アルバイトに伴って発生するトラブルについて問うた。アルバイトなしとアルバイト先とのトラブル経験なしとの回答が合わせて580 [284] 人(85 [87] %)であったのに対して、残りの者から99 [77] 件のトラブルが挙げられた。「給料の未払いがあった」「サービス残業を強いられる」という悪質なものが15 [16] 件(15 [22] %)であった。「休みを申し出ても休ませてもらえない」、「辞めたくても辞めさせてもらえない」、「無理なシフトを強制されることが多い」等の、悪質度はやや低くても学業に悪影響を及ぼすようなトラブルが、合計60 [34] 件 (61[48]%) と多かった。

表 14 アルバイト上のトラブル

回答	回答数	比率%
アルバイトなし	151	23.5
トラブルなし	429	66.7
給料の未払いがあった	5	0.8
休みを申し出ても休ませてもらえない	11	1.7
辞めたくても辞めさせてもらえない	25	3.9
無理なシフトを強制されることが多い	24	3.7
サービス残業を強いられる	10	1.6
その他のトラブル	24	3.7
合計	679	105.6

身体と気持ちの健康度：平成30年6月から7月までの期間の身体の状態を聞いたところ、「健康で調子が良かった」と「まあまあ調子は良かった」を合わせて557 [364] 人(87 [88] %)であったが、「調子が悪かった」との回答が25 [9] 人(4 [2] %)いた。同じ期間の気持ち・メンタルな面での健康状態では、44 [27] 人(7 [6] %)が「調子が悪かった」と答えた。これらの「調子が悪かった」と答えた学生にはなんらかの対処が必要である。

「大学内に仲のよい友達はあるか」との問いに、32 [24] 人(5 [6] %)がいないと、54 [31] 人(8 [7] %)が「分からない」と答えた。これらの者は大学生活の中で孤立化・浮遊化している学生である可能性があるため、十分なモニタリングが必要である。

表 15 身体と気持ちの健康度

回答 (身体)	回答数	比率%	回答 (気持ち)	回答数	比率%
健康で調子が良かった	262	40.7	健康で調子が良かった	210	32.7
まあまあ調子は良かった	295	45.9	まあまあ調子は良かった	286	44.5
少し調子が悪かった	61	9.5	少し調子が悪かった	103	16.0
調子が悪かった	25	3.9	調子が悪かった	44	6.8
合計	643	100.0	合計	643	100.0

表 16 大学内での仲のよい友人の有無

回答	回答数	比率%
いる	557	86.6
いない	32	5.0
分からない	54	8.4
合計	643	100.0

大学生活全般への取り組みと満足度：「大学卒業後の進路を見据えて何らかの準備をしてい

るか」との問いに対し、「一生懸命に取り組んでいる」、「ある程度は取り組んでいる」、「計画があり、現在取り組みつつある」という積極的な回答が合計 379 [272] 人(59 [65] %)あった。ただし、「準備をする気持ちがない、気持ちになれない」と「分からない」が合わせて 69 [29] 人(11 [7] %)おり、なんらかの対処が必要である。

「自分の大学生活全般への満足度」を問うたところ、「大いに満足している」、「やや満足している」を合わせて 373 [240] 人(58 [57] %)であった。一方、「やや満足していない」、「まったく満足していない」、「分からない」を合わせて、93 [62] 人(15 [15] %)いた。

表 17 大学卒業後の進路を見据えた準備と大学生活全般への満足度

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
一生懸命に取り組んでいる	139	21.6	大いに満足している	114	17.7
ある程度は取り組んでいる	152	23.6	ほぼ満足している	259	40.3
計画があり、現在取り組みつつある	88	13.7	どちらとも言えない	177	27.5
計画はあるが、行動はしていない	82	12.8	やや満足していない	54	8.4
ほとんど何もしていないが、取り組む 気持ちはある	113	17.6	まったく満足していない	32	5.0
準備をする気持ちがない、気持ちにな れない	24	3.7	分からない	7	1.1
分からない	45	7.0	合計	643	100.0
合計	643	100.0			

大学入学後学んだこと・自分自身の成長評価： 大学DPに掲げる事項に対応する14事項に対して「大学での学修によって自分自身がどう変化したと思うか」を入学時の自分と比較して回答を求めた。

表18 入学後の自分自身の成長に対する評価

1. 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性 [DP1]
2. 人類の文化、社会と自然に関する一般的な教養 [DP2]
3. 物事を科学的に、論理的に考える方法や力 [DP2]
4. コンピュータの操作方法や情報処理技術 [DP2]
5. コミュニケーションの能力 [DP2]
6. 自ら学ぶことの喜びや楽しさを知っている程度 [DP2]
7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能 [DP3]
8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力 [DP3]
9. 職業観を持ち、卒業後の進路に対する準備の程度 [DP4]
10. 生涯にわたって学習を続けていく能力 [DP4]
11. 倫理観 [DP5]
12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識 [DP5]
13. 多様な言語・社会・文化に対する理解 [DP6]
14. 国際人として活躍する素地 [DP6]

1 [DP1]	回答数	比率%	2 [DP2]	回答数	比率%	3 [DP2]	回答数	比率%
大きく増えた	130	20.2	大きく増えた	116	18.0	大きく増えた	102	15.9
増えた	341	53.0	増えた	349	54.3	増えた	314	48.8
変化なし	157	24.4	変化なし	164	25.5	変化なし	212	33.0
減った	10	1.6	減った	12	1.9	減った	10	1.6
大きく減った	5	0.8	大きく減った	2	0.3	大きく減った	5	0.8
合計	643	100.0	合計	643	100.0	合計	643	100.0

4 [DP2]	回答数	比率%	5 [DP2]	回答数	比率%	6 [DP2]	回答数	比率%
大きく増えた	145	22.6	大きく増えた	149	23.2	大きく増えた	141	21.9
増えた	361	56.1	増えた	309	48.1	増えた	310	48.2
変化なし	129	20.1	変化なし	153	23.8	変化なし	166	25.8
減った	7	1.1	減った	25	3.9	減った	16	2.5
大きく減った	1	0.2	大きく減った	7	1.1	大きく減った	10	1.6
合計	643	100.0	合計	643	100.0	合計	643	100.0

7 [DP3]	回答数	比率%	8 [DP3]	回答数	比率%	9 [DP4]	回答数	比率%
大きく増えた	177	27.5	大きく増えた	101	15.7	大きく増えた	125	19.4
増えた	361	56.1	増えた	344	53.5	増えた	325	50.5
変化なし	96	14.9	変化なし	190	29.5	変化なし	181	28.1
減った	7	1.1	減った	7	1.1	減った	9	1.4
大きく減った	2	0.3	大きく減った	1	0.2	大きく減った	3	0.5
合計	643	100.0	合計	643	100.0	合計	643	100.0

表 18 入学後の自分自身の成長に対する評価（続き）

10 [DP4]	回答数	比率%	11 [DP5]	回答数	比率%	12 [DP5]	回答数	比率%
大きく増えた	107	16.6	大きく増えた	106	16.5	大きく増えた	124	19.3
増えた	316	49.1	増えた	324	50.4	増えた	292	45.4
変化なし	205	31.9	変化なし	203	31.6	変化なし	214	33.3
減った	9	1.4	減った	8	1.2	減った	9	1.4
大きく減った	6	0.9	大きく減った	2	0.3	大きく減った	4	0.6
合計	643	100.0	合計	643	100.0	合計	643	100.0

13 [DP6]	回答数	比率%	14 [DP6]	回答数	比率%
大きく増えた	135	21.0	大きく増えた	82	12.8
増えた	334	51.9	増えた	220	34.2
変化なし	166	25.8	変化なし	330	51.3
減った	6	0.9	減った	6	0.9
大きく減った	2	0.3	大きく減った	5	0.8
計	643	100.0	合計	643	100.0

大学入学後の自らの成長に関して、いずれの側面でも、「大きく増えた」及び「増えた」と回答した者の割合が高かった。なかでも[7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能]は、回答者の83.6%が増えたと感じている。他方、[14. 国際人として活躍する素地]に関しては、増えたとした者が47.0%いる一方で、「変化なし」とした者が51.3%おり、成長の実感を得られていない側面であることが示唆された。

また各側面ごとに各学年の平均値を求め、横断的比較を行ったところ、多くの側面で3学年まで緩やかに上昇し、4学年で幾分下降するというトレンドが見られた。

これらの結果は、設問及び選択肢設計の構造上の問題も背景にあると考えられるため、学修成果に係る学生の自己評価の測定に関しては、今後検討を要する。

4. まとめ

本学学生の通学時間や通学手段の各比率は、H29調査とほぼ変化はなかった。全体の約7割が通学時間60分以下であったが、一部に極めて長い学生もいた。それら学生にとっては、学修時間やサークル活動に費やすことができる時間の上で、ハンディキャップになっている可能性が、依然としてある。

登校状況、登校した場合の滞在時間は、H29調査とほぼ同じで、概して良いと判定できる。ただし学習に費やしている時間の点では不十分な学生が多いこともあらためて示された。シラバス上での事前事後学習内容の具体的明示等を開始し、またH30調査より学習時間に関する質問の精度を高めたので、次年度調査以降の推移に注目し、それらを促す方途の検討を進めていく必要がある。

経済的に困窮している（「非常に苦勞している」「どちらかと言えば苦勞している」）とした学生の割合は、H2調査とほぼ同率でやく50%であった。学生の大半（約8割）がアルバイト経験があり、アルバイト収入を得た後でも困窮しているとした学生は、約3割にのぼる。

施設については、図書館、コンピュータ室、カフェテリアの満足度は、H29調査に引き続き概して高かった。今回はこれに加えて、コスモスホールについても尋ねたが、満足度は非常に高く、また学内における居場所として機能していることも示された。ただし「居場所がない」とした学生は微増しており、アメニティ空間の創造については今後も検討を進めていく必要がある。

心身の健康についての回答割合は、H29 調査結果とほぼ近似したものとなり、大きな変化は見られていない。学内に仲の良い友人がいるとした学生の割合（約 8 割）にも変化はなかった。しかしながらやはり身体及び気持ちの部分で「調子が悪い」とした学生や「仲の良い友人がいない」とした学生も一定数、変わらず見いだすことができた。

将来を見据えた準備状況に関しても、H29 調査の結果とほぼ変化はなく、積極的な取組を約 6 割が示した一方で、準備をしていない事をうかがわせる層もやはり見受けられる。

大学入学後自分自身の成長に関する自己評価を大学 D P を軸に問うた結果、「入学時に比して増えた」とする者が多く、大学での学びや経験を通じて自己の成長を少なからず感じていることがうかがえた。

H29 調査と今回の調査は、質問内容をほぼ固定して実施したが、今後もこの方向性を維持することで、単年度の吟味に加えて、その変化に関する検討も可能であろう。さらに同調査を教学システムや進路・就職指導等の各種施策・取組の効果を評価する際の外的基準として位置づけられるような検討と工夫が今後必要であろう。